



明治末期の東大寺大仏殿 奈良県名勝写真帖より



昭和 41 年正月 昭和の大修理前の大仏殿 写真撮影：厚見昌彦氏



現在の大仏殿 参道に 4 種の敷石が敷かれている

【9】東大寺大仏殿

最初の大仏殿は 758 年完成。平重衡の南都焼討（1181 年）及び松永久秀等による戦火（1567 年）で二度にわたって焼失。それぞれ鎌倉（1190）と江戸時代（1709）に再建された。世界最大級の木造建築。

●明治末期の東大寺大仏殿

その後、明治の大修理が行われ、明治 39 年の着工から大正 4 年落慶法要まで 9 年を要した。当時最盛期を迎えた鉄骨技術（トラス構造）による補強が施された。

●昭和 41 年正月

このあと 昭和の大修理が行われた。昭和 48 年着工、55 年に落慶法要。この時、大仏殿への参道に 4 種の敷石が敷かれた。仏教がインドから日本へ伝わった国の石が引かれている。インドの青い石、中国の赤い石、朝鮮の白い石、両サイドが日本の石。